7/15(土) まッど！倫理です。「今週の倫理」の小さな問題……ですが
小額のたのまれ事こそ速くしてあげる、打合せする……お客様が恐縮されてる事項
こそ速くしてあげる事んで！
幸せ運ぶマホー鳥

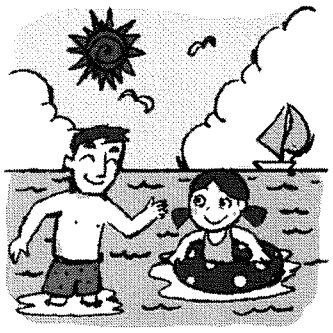
今週の倫理

7月のテーマ ｜ 身にしみた教訓

2023.7.15～7.21

1342号

小さな問題を深く掘り下げる



「蟻の穴から堤も崩れる」と言われます。これは、小さな不注意や油断から大事が起きるという意味の言葉です。

昨今の企業の不祥事のニュースなどを見ても、些細なことだと高をくくっていたことが、大きな問題に発展してしまったというケースは、少なくありません。

何事においても、失敗は避けられるものではないでしょう。しかし、その失敗から学ぶことをせず、同じ失敗を繰り返していては、いつしか大問題になりかねません。

失敗を繰り返さないためには、些細なことでも、なぜ失敗に至ったのかを振り返りながら、原因を明らかにし、改善につなげることが肝要だと言えるでしょう。

また原因を究明する際に、大切にしたいことは、その原因を目に見える形や行動だけに求めるのではなく、その奥にある自分自身の心にまで目を向けることです。

倫理研究所の第二代理事長の丸山竹秋は、自著の中で、失敗後の対処について、次のように述べています。

なぜそうした原因によって失敗したのかという原因の原因ともいうべきものがある。それを追求するのが正しい。油断していたから、不注意だったから「火事になった」などとよく言う。しかし、なぜ油断をしていたか、なぜ不注意だったか、それらが問題なのだ。疲れていたから油断をしたという。ではなぜ疲れたのか、ということだ。無理をしたから、ほかのことを考えていたから……その他いろいろとあるであろう。ではなぜ無理をしたのか、なぜほかのことを考えていたのか、そのあたりからハッキリさせたい。

（『つねに活路あり』丸山竹秋著）

失敗をきっかけに、自分自身の心や生活のあり方、人生全体を俯瞰し、反省を深めた時、そのもとになった出来事が些細なものであったとしても、大きな学びを得ることができるはずです。

営業職のYさんは、ある日、電車の遅延により、取引先との商談に遅刻をしてしまいました。幸い、無事に契約に至ったものの、先方に対して迷惑をかけてしまったことを反省し、Yさんはその後、商談や打ち合わせの際には、早めの電車で向かうことにしたのです。

また一日仕事が立て込んでいたある日のこと、今度は別の取引先からのメールの返信を失念してしまい、結果として、その商談はご破算となったのです。

Yさんは、これらの二つの失敗を改めて振り返ってみると、いつも物事を先延ばしにするクセが、すべての原因であったと気づかされたといいます。

大きな問題が生じる前には、小さな予兆や変化があるものです。そうした予兆や変化は、些細な日常の失敗の中に隠されていることが少なくありません。

問題が小さなうちに、深く反省をし、より良い方向へ軌道修正していきましょう。そうすることで、後に〈あの日の失敗の反省が、今に生かされている〉と思える尊い教訓へと変わるはずなのです。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局